

テキスト等の無断転載・引用・複製禁止

肥薩おれんじ鉄道未来戦略検討委員会 今後考えられる論点について

第一回肥薩おれんじ鉄道未来戦略検討委員会(設立総会及び第一回協議会)

2024年12月23日

大分大学経済学部門 大井 尚司

*なお本資料記載の内容は私の責任により作成したものです(委員会全体の見解ではありません)

考えられる論点(今後のために)

- 「存在価値」など長期の議論ができない現状
過剰に鉄道の存在意義や価値ばかりは言えない
旅客輸送におけるバス・新幹線との共存(なくなるリスク)
観光列車の「賞味期限」: 全国でもこれがもとで経営難
- 長期も見据えた短期の議論
若年層の定住: 高校までは地元に住んで通える体制必須
 ⇔ 地元高校の定員割れ: 中学校・高校・交通連携
物流＋産業: 貨客混載＋地域産品PRと輸送

考えられる論点(今後のために)

- 「観光は水物」「観光はまず地域人から」
観光客が2度・定期的に来る保証はない
→ 観光に依存しすぎるとダメ 地域人が回って案内できる仕掛けづくり
- 他交通機関との共存共栄
バスもなくなるリスク: あるうちに共存
→ 時間帯によるシェア、共同経営実証実験事業の活用
二次交通がないからライドシェアは短絡的
(ただし、鉄道・バス事業者がライドシェアを担える制度改革は実施予定)

考えられる論点(今後のために)

- 沿線・鉄道・交通機関だけで考えない
天草との関係(三県架橋、シャトルバス)
熊本市・鹿児島市の経済力の活用: 日常移動の拡大
イオンなど商業施設との連携: 買い物には行きたい
他三セクもJRもきつい: 共同経営的発想(整備、車両、人材育成)
両県の地域公共交通計画との関係: 修正して位置付けるか
- どうやって外部の力を借りるか
大学・高校との連携: 各種コンテスト、研究支援
定期的な勉強会・ワークショップの実践